

地球のこども



回覧

持ち出し禁止

資料提供：
森のようちえん全国ネットワーク

Contents

- 1 アサヒビール環境文化講座 地球に生きる私たちのライフスタイル
- 3 あいおい親子自然教室
- 5 特集 自然エネルギーと環境教育
じつは地球温暖化防止に役立っていた 都市に森を作ろう 緑のカーテン
ソフトエネルギープロジェクト 新エネルギーの体験学習
- 9 環境Library この星の自然から、暮らしの姿までを、縦横に見渡し感じる 南兵衛@鈴木幸一
- 11 森のようちえん全国交流フォーラムinくりこま高原 小西 貴士
- 14 インプリ vol.3 青木 雄司
- 15 Grapevine
- 18 事務局より
- 19 Environmental Education Event/Recommend
- 21 食のわ 第3回 命のリレー ~自然学校の食卓にて~ 浜本奈鼓



森のようちえん 全国交流フォーラム in くりこま高原

●文 小西 貴士 (キープ自然学校 森のようちえん事務局)

「森のようちえん」をご存知ですか？
幼児の成長のための新たな場として注目されるこの活動は日本でも広がりを見せているようです。
今回は、キープ森のようちえん♪の活動を展開している小西貴士さんより、「森のようちえん全国フォーラムinくりこま高原」の様子を投稿いただきました。



■初開催のフォーラム 「ここからはじめよう！」

自然体験と子育て、幼児教育を考える「森のようちえん全国交流フォーラムinくりこま高原」が、去る10月22日(土)〜23日(日)の2日間の日程で開催されました。紅葉見頃の栗駒山中腹にある、くりこま高原自然学校(宮城県栗原市栗駒)が、今回の会場でした。「森のようちえん」をキーワードにした全国的な交流会・フォーラムとしては、おそらく初の試みだったと思われれます。当日は、子育て中のお父さん、お母さん、自主保育に取り組んでいる方や保育士さん、学生の方など総勢60名が、地元東北をはじめ、北海道、関東甲信越各都県、富山、岐阜、愛知など全国から集まりました。

■開会&基調講演 「森に吹く風のように」

初日は雨。栗駒山は雲の中に姿を隠していましたが、雨の日の紅葉の森は静かな美しさで満ちていました。外の肌寒さとはうって変わって、会場内は熱気が溢れ、まずはドイツ在住の環境ジャーナリスト、今泉みね子さんの基調講演で幕を開けました。
「森のようちえん・自然から学ぶこと」と題した今泉さんのお話では、ドイツ全土に広がる原生林を切り倒したことから始まった環境破壊や、反原発運動、森を守る運動など、環境に対する社会運動の歴史と「森のようちえん」の広がりが深く重なっているという背景を説明いただきました。

また、スライドを交えてドイツの森のようちえんの様子も紹介され、園舎を持たず、固定されたカリキュラムもなく、子どもが自由に森で遊ぶことの意味が、森に吹く風のように自然に皆の心に響く時間でした。「子どもの奥底にある豊かさは、森の多様性によって引き出され、それは子どもの幸福感を呼び覚ますのです。」という今泉さんの言葉もとても印象的でした。この時間のお話だけでも、「森のようちえん」の持つ可能性の大きさと、そこに関わる人々の子ども観の大切さを、参加全員が共有できたのではないかと思います。



■パネルトーク 「雨垂れがしみいるように」

基調講演に引き続き、「それぞれの森のようちえん・実践と哲学を語る！」と題して、パネルトークが実施されました。

内田幸一さん(長野県飯綱高原・子どもの森幼児教室) 白井朋子さん(長野県穂高町シャロムヒュッテ・野外保育森の子) 小菅江美さん(新潟県環境教育事務所 Life Time・てくてく) 小西貴士(筆者)の4名が、それぞれの取り組みの紹介も交えて、キーワードを出し合い、持論を語り合いました。笑いあり、子どもの成長の場を創る熱き魂にふれる瞬間あり、参加者の意見に耳を傾ける時間あり……
コーディネーターの佐々木豊志さん(NPO法人



地球の暮らしと自然教育研究所・JIEEF理事)の出すお題はどれも難問?!そのお陰で、パネリストの4名も、それぞれの子ども観や悩み、哲学などを、等身大で語り合えたのではないのでしょうか。この時間は、森のようちえんは「子どもが主役」という大原則が、会場の屋根から滴る雨垂れのように、自然と皆の心に染み渡った時間でした。

■ナイトセッション&交流会 「小さな火が集まって」

夜には、「ナイトセッション」と題した参加者の自主発表が実施されました。それぞれが各地で取り組んでいる9つの事例や情報が、スライドなどを交えて紹介されました。
その後、ポスターセッションの会場で交流会が開

■デイセッション 「色とりどりの落ち葉を紡ぐように」



2日目は、前日の4名のパネリストを講師に、グループA(内田・小菅)、グループB(白井・小西)に分かれて「もっと詳しく森のようちえん」と題した2つの分科会を開き、森のようちえんに
ついてさらに掘りさげて、参加者と共に、森のようちえんを運営するにあたっての具体的な悩みや相談、その可能性などについて、踏み込んだ議論がされました。

VTTRを見たり、お茶を片手にであったり、このメンバーでこの時間だからこそ話したいことがたくさんあります。お父さん、お母さん、保育士さん、実践者、様々な立場の人が、純粋に子どものためにという視点から意見を交わす様子は、前日からの風雨で落ちた色とりどりの落ち葉を紡ぐような素敵なお時間でした。